

マイクロ・コンピュータによるプログラミング教育

横尾恒隆*、佐藤克宏**、川嶋良昭*、佐藤信安*

(1990年12月10日受理)

Tsunetaka YOKOO, Katsuhiko SATO, Yoshiaki KAWASHIMA and Nobuyasu SATO

Instruction of Programming Using a Micro-Computer.

1 はじめに

中学校学習指導要領の改訂にともない、技術・家庭科の領域として「情報基礎」が新設されることになった。この領域の目標として、「コンピュータの操作を通して、その役割や機能について理解させ、情報を適切に活用する基礎的な能力を養う」ことが掲げられている。そして指導内容として、コンピュータの仕組み、コンピュータの基本操作、簡単なプログラムの作成、コンピュータの利用・役割・影響等、が挙げられている。この内容編成は、コンピュータ教育として必要な内容を網羅していると読み取ることが可能である。

しかしながら「情報基礎」の具体的な教育内容については、現在必ずしも合意が得られていないのが実情である。一方で、日本語ワードプロセッサ、データベース、表計算、図形処理などのアプリケーションソフトの活用に重点を置く動きがみられるが、他方そのような内容編成では、「コンピュータに関する真の力がつかないし、たちまちゆきづまらるであろう」という批判がなされているのも事実である^{1) 2)}。そのような批判と関わって、コンピュータのハード面に関する理解や制御に関する理解を重視するべきだとする主張もある³⁾。このような状況を踏まえながら亀山 寛は、「情報基礎」の教育内容として、1) プログラミング、2) アプリケーションソフトの利用法、3) コンピュータ制御、などを挙げている。⁴⁾ またそれぞれの分野に関する研究や実践例も出されつつある。

本研究は、これらの分野のなかでプログラミングの教育を取り上げ、マイコンを用いた

*岩手大学教育学部技術科

**岩手大学教育学部学生

